

令和7年度 江戸川区立葛西中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

|             |   |  |                            |  |
|-------------|---|--|----------------------------|--|
| 学校教育目標      | 「豊かな心」<br>・自ら進んで学ぼう ・責任を果たそう ・健康な生活を送ろう |  | 目指す学校像<br>目指す生徒像<br>目指す教師像 | ・保護者にとって、子どもを通わせてよかったと思える学校<br>・「確かな学力」「豊かな心」「健康な体」をバランスよく備えた生徒<br>・人権尊重の精神に富み、自身の職務に専念し、生徒・保護者から信頼される教師                   |
| 前年度までの本校の現状 | 成果                                      | ・すべての学校行事を充実させ、実施することができた。<br>・各教科で学習タブレット端末を活用した授業が多くなり、お互いの意見や考えを共有しあう授業を実践することができた。 | 課題                         | ・どの学年も不登校生徒の人数が非常に多くなっている。不登校対策シートを活用し、学校の求心力を高め不登校の生徒数を減少させる。<br>・教員によりICT機器・設備の活用に差がある。授業だけでなく、校務にも積極的に活用し、働き方改革につなげていく。 |

| 重点               | 取組項目   | 具体的な取組内容  | 数値目標   | 達成度 |    | 「中間」自己（学校）評価(A~D) |   | 「中間」学校関係者評価(A~D) |   | 「年度末」自己（学校）評価（A~D） |   | 「年度末」学校関係者評価（A~D） |   | 次年度に向けた改善案                                |
|------------------|--|---|--|-----|----|-------------------|---|------------------|---|--------------------|---|-------------------|---|---|
|                  |  |   |  | 9月  | 2月 | 評価                | コメント  | 評価               | コメント  | 評価                 | コメント  | 評価                | コメント  |   |
| 学力向上             | ・授業改善の推進<br>・学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得                       | ・校内研修（都教委訪問等）において、全教員が一人一回以上研究授業を実施する                                     | ・生徒授業評価において分かる授業の設問の肯定的意見を85%以上にする                             | B   | B  | B                 | ・都教委訪問に向けて、全教科で指導案を作成することができた                               | B                | 全国学力調査で【国語】が全国平均を上回ったことは良かった。他教科も続いてほしい                             | B                  | ・都教委訪問では全教職員で研修を深め指導力向上に努めた<br>・生徒授業評価での肯定的意見は93.8%で目標を達成した | A                 | ・ICTやタブレットの活用など日頃、様々な工夫を凝らして授業をしていることがわかった                      | ・次年度は小中合同の教科部会を設置し、各教科における小中連携をさらに強化する    |
|                  | ・ICT機器、設備の活用<br>・FCRを生かした授業の増加と有効的な活用                  | ・生徒、教員用タブレットを積極的に活用する<br>・FCRを利用した授業を取り入れ、有効的に活用する                        | ・各単元で一回以上ICT機器を用いた授業を展開する<br>・全生徒が1回以上FCRで授業を受ける               | B   | B  | C                 | ・タブレットは多くの教科・授業で活用している<br>・中学校は、FCRの利用頻度が少ないので改善したい         | B                | FCR（フューチャークラスルーム）が、より有効的に活用できると良い                                   | C                  | ・タブレットは多くの教科・授業で活用できた<br>・中学校は、FCRの利用頻度を上げることができなかった        | B                 | ・すばらしい環境・設備で、誰もがわかりやすい授業をしていることはとても良い                           | ・効果的な研修を計画する<br>・FCRを使用した授業を1度は実施する       |
|                  | ・読書科の更なる充実   | ・読書紹介や調べ学習等の探究的活動を通して、発表する機会を設ける  | ・読書科、図書館の活用において保護者アンケート肯定的意見70%以上にする                           | C   | C  | C                 | ・読書紹介や調べ学習の探究活動の発表は、廊下・教室掲示が中心である                           | C                | 読書科などの活動が成長につながるよう、引き続き見守っていく                                       | B                  | ・読書科、図書館の活用において保護者アンケートでの肯定的意見は88.9%で目標を達成した                | C                 | ・作成した展示物が廊下、教室に展示してあっても見ることができないのが残念                            | ・学校公開に向けて、各学年の掲示物・展示を充実させる                |
| 体力向上             | ・運動意欲や基礎体力の向上  | ・年間の体育の授業において5分の補強運動と3分のランニングを実施する  | ・生徒授業評価アンケートで「体力がついた」と考える生徒を85%以上にする                           | B   | A  | B                 | ・保健体育の補強運動は、計画通り実施している<br>・5日間の夏季水泳教室にのべ197名が参加（1回平均39名）    | B                | 水泳の授業について、熱中症予防のため、気温が高いときには中止になると聞いて、水泳の授業が実施しにくい環境には、学校が抱える悩みを感じる | A                  | ・生徒授業評価において、保健体育科の肯定的意見は96.7%で目標を達成した                       | A                 | ・部活動が活発なことが良い<br>・夏は水泳、その他柔道、ダンスなど様々な取組が体力向上につながっていると感じる        | ・保健体育科のダンスの取組に対して、発表会を継続する                |
|                  | ・運動会を通した運動意欲や基礎体力の向上②                                  | ・運動会に前向きに取り組む態度を育成する<br>・学級、学年の一層の団結を図る                                   | ・事後アンケート、感想文から、学年だよりで多くの生徒の作文を紹介する                             | A   | A  | A                 | ・運動会実行委員を中心に、全校で一生懸命取り組んだすばらしい運動会となった                       | A                | 天候不良で再延期となったが、はつらつとした動きで中学生らしいとても良い運動会であった                          | A                  | ・運動会の保護者の感想として生徒のすばらしい競技・演技が見れてよかったとの声が多くであった               | A                 | ・再延期にも関わらず、運動会はすばらしい盛り上がりだった。生徒の生き生きした姿が見られた                    | ・来年度は保護者がさらに見学しやすい環境を整える                  |
| 共生社会の実現に向けた教育の推進 | ・エンカレッジルーム、不登校別室支援教室の活用促進                              | ・特別支援コーディネーター、不登校支援コーディネーターを中心に、不登校支援巡回教員、特別支援専門員、心理士、SC、SSWとの連携を強化する     | ・毎週教育相談部会を開催し、生徒の情報共有や支援の手立てを検討することで別室支援教室の活用を促進する             | B   | B  | B                 | ・教育相談部会は定期的に開催し情報交換ができています<br>・SSWをはじめとして、組織的な連携ができています     | B                | SCやSSWの活用を含め、引き続き見守っていく   | B                  | ・特別支援教育コーディネーターや特別支援教室専門員を中心に、エンカレッジルーム活用を滞りなく運営できた         | B                 | ・特別支援教育など多種多様な教育が増える一方で、どのような教育がすすめられているかが見えてこない現状がある           | ・学校評議員会で、特別支援教育の仕組みや内容を説明する               |
| 不登校の充いじめ対策       | ・不登校対策の実施・充実<br>・教育相談体制の強化                             | ・別室支援教室登校、みらいサポート教室等の外部機関への通室など普通教室以外への登校をSC、SSW等外部機関と速やかに連携し円滑に進める       | ・不登校対策シートを用い不登校出現率を昨年度より1%低下させる<br>・SSWや児相などの制度や内容をまとめ、教職員に伝える | B   | C  | B                 | ・Iカッパ 姉-ターも増え、別室生徒にとって機能している<br>・今後はより効果的な活用、運用を目指していく      | B                | 長期休みが2学期以降の不登校につながるため、長期休業中に働きかけをすることは良いことと感じた                      | C                  | ・Iカッパ 姉-ターにより、年間通して安定した運営ができた<br>・不登校生徒の出現率を抑えることが急務である     | C                 | ・不登校の問題は保護者の考え方によるものもある<br>・民生児童委員として、いろいろな学校の取組があり、学校により温度差がある | ・不登校生徒の新規出現率を抑えるために、支援委員会での情報共有や検討方法を工夫する |
|                  | ・L-Gate「毎日の記録」の活用<br>・いじめ根絶宣言の実施                       | ・生徒用タブレットを毎日活用し、集団での傾向や変化を分析する<br>・いじめ根絶宣言を4月に各学級で実施する                    | ・「毎日の記録」を確実に実施する<br>・各学級で定めた目標を教室に掲示する                         | B   | B  | B                 | ・「毎日の記録」を毎日実施している<br>・いじめ根絶宣言は各クラス、教室に掲示できている               | B                | 不登校生徒への支援を含め、引き続き見守っていく   | B                  | ・「毎日の記録」を実施することができたが、活用については課題がある                           | B                 | ・細かい問題はあるだろうが、おおむね良好であると感じる                                     | ・引き続きいじめ根絶宣言に取り組み、各クラスのいじめ根絶宣言を紹介する       |
| 学校（園）開かれた地域社会の実現 | ・自校の取組の積極的な発信<br>・学校ホームページの充実、tetoruの活用<br>・学校公開の実施、充実 | ・学校日記を通して学校の情報を積極的にホームページで発信し、随時更新する<br>・年3回の土曜日の学校公開、各行事で多くの保護者に参観してもらおう | ・保護者アンケートにおいて、開かれた学校の項目の肯定的な意見、85%以上を目指す                       | B   | A  | B                 | ・行事や生徒、教職員の活動などを中心に情報発信している<br>・2学期は行事が多いので、1週間に1度HPの更新を目指す | B                | 特に閉鎖的とは感じていない引き続き、情報発信をお願いしたい                                       | A                  | ・保護者アンケートでの開かれた学校づくりに対する肯定的意見は96.6%で、目標を達成できた               | A                 | ・数値目標を設定して、目標を上回る結果が出ていることはすばらしいことである<br>・引き続き情報発信を期待したい        | ・引き続き、週1回のHP学校日記の更新を目指す                   |
|                  | ・学校関係者評価の充実<br>・教育活動の改善、充実に向けた学校関係者評価の実施               | ・年3回の学校評議員会において学校関係者評価の内容の検討、改善を図る  | ・学校関係者評価の内容に関して、肯定的意見85%以上                                     | B   | B  | B                 | ・引き続き、学校評議員の方の指導を仰ぎ、学校運営に活かしていく                             | B                | 学校評議員会では活発に意見が出ており、改善に取り組みされているのが良い                                 | B                  | ・上記の通り高い評価を得ているので、引き続き開かれた学校を達成すべく、邁進していく                   | B                 | ・すばらしい設備を今後も活用し、開かれた学校として地域に根ざした学校であってほしい                       | ・防災体験会や学校公開に招待し、葛西小中を参観していただく             |
| 教育の展開            | ・小中連携教育の更なる推進  | ・小中連携した授業改善<br>・小学生、中学生が仲良くともにのびのびと成長できる場を設定する                            | ・小中連携アンケートにおいて、肯定的な意見80%以上にする                                  | C   | B  | C                 | ・小学校体育大会に向けての練習や吹奏楽部の発表で小中連携を行った                            | B                | 併設校の良さを活かして、小学校との連携を多くもってもらいたい                                      | B                  | ・保護者アンケートでの小中連携に対する肯定的意見は91.1%で、目標を達成できた                    | B                 | ・小中併設校の良さがみられる。地域の良いランドマークになりつつある                               | ・小中連携については、できることを無理なく実行する                 |
|                  | ・防災教育の充実<br>・災害発生時の対応、避難時の共助の心の育成                      | ・夏休みに区や消防署、PTAと連携した防災体験会を実施する<br>・中学生が主体的に活動する場面を設定する                     | ・事後アンケート、感想文から、学年だよりで多くの生徒の作文を紹介する                             | B   | A  | B                 | ・防災体験会は8/30に実施<br>・中学生への事前指導や区危機管理部との打ち合わせは予定通り行った          | A                | 毎年開催され、有意義なものになっている<br>小学校低学年も参加できると良い                              | B                  | ・防災体験会は参加した中学生が大いに活躍できた場となり、地域に中学生の力をアピールできた                | A                 | ・先日の町会防災訓練も盛況だった<br>・防災教育は積極的に取り組んでいる印象である                      | ・今後も防災に対して意識を高めるとともに、より多くの生徒が関わる内容を検討する   |
|                  | ・「読み語り部」による地域貢献<br>・図書館活用の更なる充実                        | ・近隣施設を訪問して、読み聞かせ活動を実施する<br>・LASと連携し、図書館ボランティア活動を実施する                      | ・近隣図書館、保育園等3カ所以上訪問する<br>・参加アンケート肯定的意見90%以上にする                  | B   | B  | B                 | ・図書館ボランティアは7月に1回目を実施、21名の生徒が参加した<br>・感想は全員肯定的だった            | A                | 良い活動は引き続き継続してもらいたい  | B                  | ・図書館ボランティアは3回実施し毎回しっかりと取り組んだ<br>・読み語り部による近隣施設への読み聞かせ活動も喜ばれた | B                 | ・読み語り部などもっと外に情報発信していけばよい  | ・早めに計画し、案内を出すことでボランティア参加生徒を増やす            |